



学校だより

<http://www.sumida.ed.jp/ryogokusho/>

令和4年6月30日

墨田区立両国小学校

墨田区両国4-26-6

TEL 3634-7876



『右しずか』 両小のしぐさの一つに

校長 渡邊 圭三

半月ほど前から中央玄関に「みぎしずか ろうかは右がわをしずかにあるく」と書かれた模造紙が掲示され、その文字の左側には静かに歩く生き物の前向きの姿が、右側にはうしろ姿のイラストが何枚も貼られていました。これは、子供たちとポスター作成を計画している、デザイン募集の過程の一コマです。一つ一つの絵を眺めてみると、(我々人間も含めて)実に様々な生き物がそれぞれ静かに歩く姿が描かれていて楽しいです。



子供たちのイラストからは企画した生活指導部の教員の意図が見えてきます。ここ数週間、子供たちの廊下や階段歩行の様子が気になるようになり、学級指導だけでなく、全校で改善するための手立てを講じようと考えました。そこで出てきた言葉が「右しずか」。区内の複数の小学校で子供たちに良いモデルを分かりやすく示そうと実際に使われ、浸透しているこの言葉を、本校でも取り入れようと試みているところです。

「右しずか」という言葉を創作した学校に聞いたところ、江戸時代に流行った「江戸しぐさ」を参考にしていることが分かりました。元々は江戸の町にいる商人たちが商いの心得を態度に表した「商人しぐさ」が由来。全国から文化や習慣の違う人たちがお互いに仲良く平和に暮らしていけるようにと、「商人しぐさ」を元に町に浸透した生活習慣を「江戸しぐさ」と呼ぶようになり、暮らしの知恵として今の時代にも引き継がれてきたのです。例えば「傘かしげ」。梅雨の時期の今だからこそと、先日の全校朝会で子供たちに紹介しました。

そして「江戸しぐさ」を各校では「〇〇しぐさ」と変え、皆が気持ちよく学校生活を送れる言葉を独自に生み出してきました。ちなみに本校の廊下をよく見ると、茶色のPタイルに中央部分が赤みを帯びているものが等間隔で敷き詰められているのをご存じでしょうか。右側歩行を身に付けさせたいという思いが校内環境のそんなところにも現れていました。

「右しずか」という言葉。最近では、子供たち同士でも声を掛け合っているのを耳にするようになりました。高学年が良い手本となるなど、その効果は徐々に全校に広まってきています。本校特製のポスターが出来上がって掲示されるのもまもなくです。学校という社会の中で、イラストの姿よろしく、誰もが気持ちよく歩行し安心して生活できることを目指して、相手意識をもった「しぐさ」として両小の皆に備わるよう指導していきます。